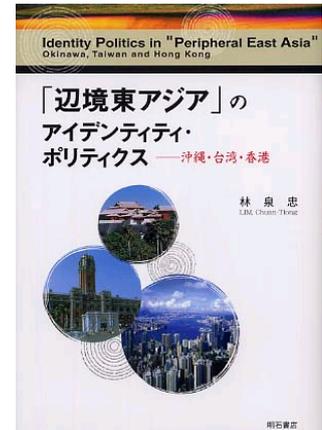




平成20年度 沖縄県公文書館講座  
沖縄アイデンティティとは何か I  
現状と構造

林 泉忠 John Chuan-tiong Lim



2008年6月

中国アモイ生まれ、1978年香港へ移住、1989年来日。中国で初等教育、香港で中等教育、そして日本で高等教育を受け、カナダビクトリア大学にも留学し、2002年東京大学法学政治学研究科博士課程を修了、法学博士号取得。(1997～99)などを経て、2002年より琉球大学法文学部に着任、准教授。現在米国ハーバード大学フェアバンク東アジア研究センターの客員研究員。

専門は国際政治学。単著に『「辺境東アジア」のアイデンティティ・ポリティクス—沖縄・台湾・香港』(明石書店)。また共著『やわらかい南の学と思想—琉球大学の知への誘い』(担当論文:「沖縄アイデンティティの読み方:県民の帰属意識の調査から」沖縄タイムス)、沖縄研究に関する新聞や雑誌の連載論考は次の通り。

<主な新聞・雑誌論考>

『「辺境東アジア」:躍動するアイデンティティ—元旦特集号、(1)(2)(3)(4)『沖縄タイムス』2006年1月1、4-5、9-10日。

1. 『祖国との距離 意識 三地域と共通点 『脱辺境化』の現れか』(元旦特集号)2006年1月1日
2. 「帰属意識の中で葛藤:競合する『沖縄人』と『日本人』」2006年1月4日
3. 「台湾と沖縄:独立に相違点」2006年1月5日
4. 「相似する構造と特徴:香港と沖縄の帰属意識」2006年1月9日
5. 「経済自立で流動化:沖縄・マカオ人の帰属意識」2006年1月10日

『徘徊する沖縄アイデンティティ—(1)(2)(3)(4)(5)『琉球新報』2005年5月10-12日、14日、16日。

1. 「日本とどう付き合うべきか:『国家』や『民族』に翻弄 沖縄社会の対応再検討を」2005年5月10日
2. 「起源:『併合』機に帰属意識 公同会、特別県政要求の起点に」2005年5月11日
3. 「豹変:独立志向から復帰へ 根強かった『日本人』意識」2005年5月12日
4. 「『復帰』と『反復帰』:国家絶対主義を批判 反権力的な自立精神を求める」2005年5月14日
5. 「4度目の方向転換:挫折した官民運動 必要な自律性ある歴史経験」2005年5月16日

『5.15 アジアから考える』(上)(下)『沖縄タイムス』2005年5月16日-17日。

1. 『住民不在』が軋轢の要因、沖縄と香港の復帰に差異」2005年5月16日
2. 「必要なシステムの見直し、総意になりつつある『自立』」2005年5月17日

『沖縄人アイデンティティ:比較の視点から』(1)(2)(3)(4)『沖縄タイムス』2004年7月5-8日。

1. 「繰り返す『反復性』 ユニークな125年の葛藤史」2004年7月5日
2. 「異民族支配が大きく影響 『辺境東アジア』と類似性」2004年7月6日
3. 「『民族性』独立左右せず 決定的要因は自立の能力」2004年7月7日
4. 「共通点多い香港と沖縄 政治性帯びた強い地元意識」2004年7月8日

『沖縄アイデンティティのゆくえ』(1)(2)(3)(4)『沖縄タイムス』2008年1月7-10日。

『「豹変」を繰り返した沖縄アイデンティティ』『地域政策』第17号、2005年、32-39頁。